

教科・科目（単位数）	農業・栽培と環境（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	栽培と環境（実教出版）	集団	21HR・技術コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栽培植物の育成環境の調整・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	調査、観察、診断、実験を通して、生育と環境要素との関係に関する知識と技術、栽培環境の管理と改善に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	栽培環境に関する課題を発見し、環境に配慮した栽培管理と法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づき創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	環境に負荷をかけない栽培技術や、安全で安心できる栽培植物の生産や環境の保全を目指して、自分の意志や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	①ペーパーテスト、レポート、ノート、ファイル ②実験・実習の実施過程、観察・調査、評価・反省、記録用紙の整理、成果の処理 ③実験・実習の実施過程、観察・調査、評価・反省、レポートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「栽培と環境」を学ぶにあたって栽培と環境	プロジェクト学習、プロジェクトの進め方について理解する	○	○	
		自然環境のなりたち、栽培環境のなりたちについて理解する	○		○
		気象観測の方法を理解し、気象観測を主体的・協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
5	栽培環境と栽培技術 気象的要素	栽培環境に適した作目と技術方法の選択、栽培環境の改良、農業が環境に与える影響について理解する		○	○
		気象と気象要素、気候について理解する。作物栽培と気候、気象災害とその対策について理解する。	○		○
		天気図の作成と読み方を理解し、天気図の作成を行うことができる。		○	○
6	土壌的要素	土壌の役割、機能、土壌中の窒素の動態、土壌肥沃度の管理、土壌の管理と改良について理解する。	○		○

7 9 10 11 12		土壌生物の観察の観察方法を理解し、土壌生物の観察に主体的・協働的に取り組む態度が身についている。		○	○
	生物的要素	農地の生物群集、害虫害、作物病害、雑草害、鳥獣害とその防除について理解する。農薬とその使用法、総合的有害生物管理について理解する。	○		○
		病原菌の観察、病徴や標兆による病害診断方法を理解し、観察や病気診断を主体的・協働的に取り組む態度が身についている。		○	○
	施設型農業の栽培環境	園芸施設の種類、ハウス・温室内の気象・土壌的要素の管理、園芸施設内の生物制御、複合的な環境管理と経営について理解する。	○		○
		塩類濃度障害や電気伝導度について理解し、電気伝導度の測定を実施することができる。		○	○
1 2	環境に配慮した栽培の実践	農業への環境への影響、農業の物質循環機能、環境に配慮した作物栽培について理解する。	○		○
		植物工場や循環型農業について調査に主体的・協働的に取り組む態度を身に付けている。		○	○

教科・科目（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（実教出版）	集団	21HR・技術コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物に関するバイオテクノロジーを農業の各分野で活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	組織培養などの体験的な学習を通して、植物体のもつ分化全能性の特性とバイオテクノロジー技術の関連について理解し、無菌操作、培養、順化に関する知識と技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	農業の各分野におけるバイオテクノロジーの意義や役割を理解し、組織培養技術などを利用して野菜、草花、果樹等の品質改善を図る考えを身に付けている。実験・実習計画に従い、手順、展開、結果の処理に取り組む態度を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	基礎的・基本的な知識と技術を基に実験・実習に取り組み、実験・実習結果の観察、整理、まとめ、評価と反省ができ、新たな課題解決を目指した思考ができる能力を身に付けている。
評価方法	①ペーパーテスト、実験・実習記録用紙、ノート ②計画の実施過程、観察・調査、評価・反省、記録簿の整理、成果の処理 ③計画の実施過程、生産物の調整、生産の成果、観察・調査、評価・反省、実験・実習振り返りシートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「植物バイオテクノロジー」とプロジェクト学習	植物バイオテクノロジーを科学的に捉え、自ら学び取り組むことができるようになる			○
	バイオテクノロジーの意義と役割	バイオテクノロジーの意義と役割について、農業や関連産業における利用の可能性や課題との関連から捉えることができるようになる		○	
5	植物バイオテクノロジーの特質と基本操作	植物の構造と機能や無菌操作の基本等との関連から捉える学習活動をとおして、基本的な無菌操作ができるようになる	○		
6	①植物の構造と機能				
	②分化と植物ホルモン		○		
	③植物の生殖と遺伝				
	④組織培養とは	培地調製や移植等の無菌操作と並行して理解する			
	⑤組織培養の方法				
	⑥施設と機器・器			○	

7	具 ⑦安全管理 ⑧実験計画と進め方	課題研究の計画やテーマの選定ができるようになる			○
9	植物組織培養の実 ①ラン類の無菌播 種 ②茎頂培養	植物の大量増殖技術について理解する。 茎頂培養の目的を理解する。茎頂培養の技術を身に付ける。	○		
10	植物バイオテクノ ロジーの実践活動	地域の伝統食材の保存（ワサビの茎頂培養と品種保存） 絶滅危惧種の保護（サツマイモ、南アルプス高山植物種子保存プロジェクト） 環境問題と併せて理解する。年間を通して並行して活動する。			○
11	遺伝子組み換え ①遺伝子組換えと は ②遺伝子組換えの 方法 ③安全性と実用化 における課題	育種の手法として遺伝子操作の原理を理解する		○	
1	バイオマスの利用 ①バイオマスとは ②バイオマスの役 割 ③資源としてのバ イオマス	資源の有効利用と再生産について考えることができるようになる	○		
2	植物バイオテクノ ロジーの成果と展 望	植物バイオテクノロジーの成果、現状、課題とこれからの展望について理解する		○	

教科・科目（単位数）	農業・課題研究（１）	学年	２年
使用教科書・副教材等	野菜 FFJファイル 自作プリント （ 出版）	集団	21HR・技術・流通
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 （２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	１年次の科目で学習した知識と技術を再確認し、自らの課題解決に活用できるより高度な知識と技術を深化し、体系的に理解し身に付けるようにする
②思考・判断・表現	学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、記録、評価、検証、まとめ、発表などを通し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う
③主体的に学習に取り組む態度	学習活動を通して、課題解決能力の向上を図り、主体的かつ協働的に地域の農業や産業の貢献に取り組む態度を養い、自己の進路実現に向けて取り組む
評価方法	①成果物の評価（小テスト、毎時間の記録） ②実習状況の観察、成果物の評価（課題設定、計画書、実行、報告書、発表） ③実習状況の観察（質問、意見、自己評価） ④FFJファイル初級

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	学校農業クラブ活動 課題調査・研究	課題研究の進め方について理解する。 学校農業クラブ活動について体系的・系統的に理解する。 FFJ ファイル初級について書き方を理解し取り組むことができる。	○ ○ ○		○ ○
5	学校農業クラブ活動 課題調査・研究	農業に関する課題を発見し、解決する力を身に付けている。 FFJ ファイル初級のファイル作成に取り組むことができる。	○	○	○

6	課題解決の取り組み	設定した課題解決方法について理解し、課題を研究する能力を身に付けている。 農業クラブの活動や産業実習を自ら学び、主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付けている。 農業クラブや農業を総合的に捉え、体系的・系統的に理解している。	○	○	○
7					
9			○	○	○
10	学校農業クラブ活動	農業クラブ活動についての評価、検証、まとめについて理解し、能力を身に付ける。	○	○	○
11	課題調査・研究	FFJ ファイルを作成し、提出することができた。			○
12		農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解している。調査・研究する技術を身に付けている。	○		
1		農業に関する総合的な課題を発見し、農業についての課題を研究する力を身に付けている。		○	
2		農業に関する課題について自ら考え、課題調査・研究等を主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科・科目（単位数）	農業 ・ 野菜 （ 4 ）	学年	2 年
使用教科書・副教材等	野菜 （ 実教出版 ）	集団	21HR・生産流通
科目の目標 野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。 （１）野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。 （２）野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	野菜の生産と経営、流通に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、野菜の生育や栽培環境、環境保全型農業について理解し、その技術を適切に活用している。
② 思考・判断・表現	野菜の生産と経営、流通に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	野菜の生産と経営、流通について興味・関心をもち、野菜生産、経営、流通について改善・向上を目指して、協働しながら主体的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	①定期試験、レポート、記録簿 ②行動の観察、圃場の様子、記録用紙の整理、実習プリント、レポート、グループワーク ③圃場の様子、実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み、行動の観察

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	野菜生産の役割と動向	日本で栽培されている野菜について、原産地や来歴、生産と消費の特徴を知り、野菜が我々の生活を豊かにしていることを理解する。	○	○	
	1, 野菜の種類と特徴(1)野菜の種類と利用	野菜の分類によって、共通する栽培管理や病虫害、生理・生態的特性を理解する。	○	○	
	(2)野菜の分類 露地野菜の栽培	ナス、ピーマン、トウモロコシ、サトイモなどの野菜の栽培管理方法（生育状況に合わせた栽培管理）について理解する。	○	○	○
5	2, 野菜の消費	野菜の消費動向の変化や消費量、消費の多様化について理解する。	○		
	3, 野菜の生産と供給	野菜の生産と流通のしくみを理解し消費の働きから輸出入の状況を把握する。	○		
	4, 野菜の安全性 露地野菜の栽培	安全・安心な野菜生産のために、多くの取り組みがあることとその重要性を理解する。	○		
6	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	おもな野菜の種まきから収穫までの生育過程を正しく理解する。	○		
	(1)野菜の生育と生理	よい種子の条件を理解し、発芽の条件および発芽の生理について理解する。	○	○	
		茎や葉の形成、成長の過程を知り、栽培との関わりを理解する。	○	○	

7	露地野菜の栽培	光合成や温度・光など環境条件との関連について理解する。			
	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	根の発達や分布について学習し、栽培との関わりを理解する。	○		
	(1) 野菜の生育と生理	葉根菜類においては、花芽形成・抽だいが栽培上不利になること 果菜類では正常な花を着生させることが基本となること理解する。	○		
	露地野菜の栽培	開花と受粉・受精のしくみについて理解する。種子形成と果実の肥大について栽培に関連付けて理解する。	○	○	
9	(2) 野菜の栽培環境と生育調節	野菜栽培において、さまざまな環境要因が生育にどのような影響を及ぼすか、好適な環境を作り出すにはどのような調整が必要かを理解する。	○	○	
	(3) 人工環境における栽培技術	施設栽培・養液栽培・植物工場などの人工環境における栽培技術の基本について理解する。	○		
	露地野菜の栽培	秋野菜(キャベツ、ダイコン、ハクサイ等)の栽培管理方法(生育状況に合わせた栽培管理)について理解する。	○	○	○
	野菜の育苗	育苗の目的を理解し、育苗の歴史を学び、良苗生産のための技術の進展を理解する。良い苗の条件を知り、苗の良否が大事ということを理解する。	○		
10	(1) 育苗の目的と方法	育苗容器の種類と特徴を学習し、利用できるようになる。品種特徴や収穫時期などの条件を考え育苗計画が立てられる。	○	○	
	(2) 育苗技術の実際と応用	市販されている育苗培地の特徴を理解し、適切な使用ができる。	○	○	
	露地野菜の栽培	種まき方法と育苗期の管理について理解して実施できる。	○	○	○
	野菜の育苗	接ぎ木のねらいと接ぎ木の種類・方法について理解する。企業による苗生産について理解する。	○	○	○
11	(2) 育苗技術の実際と応用	セル成型苗の生産方式とセル成型苗の利用の状況と実際について理解する。	○		
	露地野菜の栽培	キャベツの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
	葉や花茎を利用する野菜の栽培	キャベツの品種特性と作型の種類を説明し、栽培に適する品種や作型の選択ができる。	○	○	
	露地野菜の栽培	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	○
12	葉や花茎を利用する野菜の栽培	ブロッコリーの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
	露地野菜の栽培	ブロッコリーの品種特性と作型の種類を説明し、栽培に適する品種や作型の選択ができる。	○	○	
	露地野菜の栽培	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	○
	根を利用する野菜の栽培	ダイコンの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
2	露地野菜の栽培	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	
	春野菜苗の播種と育苗	春野菜苗(ナス、ピーマン、シシトウ)の播種と育苗の方法について実習を通して技術を身につける。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	集団	31HR・生産流通
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	農業生産や経営管理の各場面に応用できる技術を身に付け、その技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力を育てる。
③主体的に学習に取り組む態度	農業の各分野に関する体験的な学習について興味・関心を持ち、農業の各分野の改善を図る実践的な態度を身に付けている。
評価方法	座学、実習レポート：記述の内容、確認、分析 授業に取り組む姿勢：行動の観察、確認、分析 基礎的・基本的な知識の理解：定期試験、レポート

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	夏野菜の育苗 野菜の生産と安全性 野菜の生育特性と栽培環境	夏野菜に関する知識と栽培方法について習得するとともに消費者に配慮した栽培技術と販売活動を実践する。	○		
5		有機JASの生産管理を理解し記帳を習慣にする。			○
6		野菜の安全性と野菜自体の力を生かせる方法を実際の栽培に役立てる。		○	
7	秋冬野菜の育苗 秋冬野菜の生育特性と栽培環境	秋冬野菜の特性と栽培を学び、各自が販売まで考えて計画的な生産活動を実施する。	○		○
9		有機JASの生産管理と記録を熟知する。	○		
10		有機肥料の設計を理解し作成ができる。		○	
11	野菜の流通と経営改善	各野菜の栽培と販売活動をまとめ評価することで経営改善に役立てる。	○		○
12		圃場の基盤整備		○	○

教科・科目（単位数）	農業・野菜（3単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	集団	31HR・生産流通
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	野菜の生産と経営、流通に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、野菜の生育や栽培環境、環境保全型農業について理解している。野菜生産について合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	野菜の生産と経営に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	野菜の生産と経営、流通について興味・関心をもち、野菜生産、経営、流通について改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	野菜の特性を学びそれを生かした栽培を実践でき、食の安全と販売を意識し行動ができるか評価する。 ・定期試験（1・2学期中間・期末、学年末試験） ・毎回のレポート、提出物の内容と有機JAS関係書類の記入状況 ・授業実習への取組状況

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5 6 7	野菜の生育特性と栽培環境 夏野菜の育苗	夏野菜に関する知識と栽培について習得する	○		
		有機JAS認証について学び理解する	○		
		連作障害や病害虫対策について学ぶとともにその対応が適切におこなえる			○
		野菜の生育特性と栽培環境を理解し、安全性と野菜自体の力を生かせる方法を学び栽培に役立てる		○	
8 9 10 11 12	野菜生産の役割と動向 秋冬野菜の育苗	秋冬野菜の特色と栽培特性を学び、計画的に生産から販売までをおこなうことで経営的な栽培技術を習得する	○		○
		有機栽培の実践と有機JAS認証に基づいた書類の記録がしっかりとおこなえる		○	○
1 2	野菜の流通と経営改善	野菜栽培の経営改善・生産と消費について年間の授業をまとめる	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・果樹（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	果樹（実教出版）	集団	21HR 生産技術・生産流通 コース
科目の目標 （１）果実の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	果樹栽培において、必要な基本的な知識を身に付け、その知識をもとに実習に取り組むことができる。
② 思考・判断・表現	果樹栽培の特性や管理方法の知識をもとにどのように実習を行えばよいか、判断することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	果樹に関する体験的な学習に興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
評価方法	（１）授業への取り組み：授業に対する姿勢、学習態度、実習への取り組みで判断する （２）プリント・ノート：授業内容を適切にまとめられているか判断する （３）定期試験

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	果樹の種類と果樹栽培の動向	果樹にはさまざまな種類があり、地域によって栽培可能な樹種があることを理解する。	○	○	
		果樹によって果実の構造に違いがあることを解決する力を養う。	○		○
		日本と世界で果樹の生産量・消費量に違いがあることを理解し、消費者が求める果樹とは何か理解する態度を養う。	○	○	
5	果樹の生育と生理	果樹の一生について学び、ほかの作物との違いを理解する。	○	○	○
		根・枝・葉の成長が相互に関係していることを解決する力を養う。	○		
		花芽分化の過程と花芽分化に関係する環境要因について理解する態度を養う。	○		
6	果樹の生育と生理	受粉・受精の仕組みを理解する。	○		
		果実の成長パターンが果樹によって異なることを解決する力を養う。	○		
		果実の成熟または追熟について理解する態度を養う。	○		

7	果樹栽培と環境	果樹の生育に影響を及ぼす環境要因を理解する。	○	○	
		果樹栽培に必要な養分について解決する力を養う。	○		
		土壌管理を行ううえで必要な土壌の構造について理解する態度を養う。	○		○
9	果樹の栽培管理	接ぎ木の方法を理解する。	○	○	○
		安定した果実生産のために、立地条件や植え付け方法を解決する力を養う。	○		
		果樹の生育に適した土壌条件を知り、その管理方法を理解する態度を養う。	○	○	○
10	果樹の栽培管理	果樹の好適土壌について理解する。	○		
		果樹の生育と施肥の関係を解決する力を養う。	○		
		かん水の方法や排水の方法について理解する態度を養う。	○		
11	果樹の栽培管理	果樹栽培において受粉樹の混植や人工受粉を行う理由を理解する。	○		
		落果の種類と原因、防止対策を解決する力を養う。	○		
		摘花・摘果を行う目的と隔年結果について理解する態度を養う。	○	○	○
12	果樹の栽培管理 (結果習性と整枝・せん定)	芽や枝の種類とその性質を理解する。	○	○	
		果樹によって結果習性が異なることを解決する力を養う。	○		○
		整枝・せん定の目的を理解し、その管理方法を身につける態度を養う。	○	○	○
1	果樹の栽培管理	果樹栽培における主な気象災害を理解する。	○		
		果樹を加害する病害虫の種類を解決する力を養う。	○	○	
		病害虫の防除方法について理解する態度を養う。	○		
2	果樹の栽培管理	果樹栽培で使用する植物成長調整剤の種類と利用目的を理解する。	○		
		日本における果樹の施設栽培の動向を解決する力を養う。	○		
		施設栽培の栽培管理や課題について理解する態度を養う。	○		

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（ 2 ）	学年	2 年
使用教科書・副教材等	農業経営（実教出版）	集団	流通コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１） 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２） 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３） 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
②思考・判断・表現	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	①農業経営に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。【レポート】 ②農業経営に関する諸問題を解決し、同級生と話し合い、考えを深めることができる。【レポート】 農業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に情報を判断し、表現する創造的な能力を身につけている。【レポート・定期テスト】インターネットやアンケートなどを活用し、農業経営に必要な情報を収集することができる。【レポート・定期テスト】 ③農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している。【レポート・定期テスト】

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	第1章 農業の動向 と農業経営	1 日本と世界の農業 ①日本と世界の農業の現状を知る。②日本における農業経営の実態と特徴を理解する。③日本も含めた世界における食料の供給について考える。	○		○
		2 農業・農村と食料 ①環境・農業や農村には、どのような役割が期待されているか考える。②食生活の変化や食に対する消費者の意識を理解する。③自然の循環機能を生かした農業のありかたを理解する。	○		○
		3 こんにちの農業経営 ①環境保全型農業を実現させていくための制度を理解する。②有機農業の特徴と意義を考える。③新たにみられるようになった農業経営のタイプと取り組みを知る。	○	○	
5	第2章 農業経営の 組織と運営	1 農業経営の主体と目標 ①農業が、だれによって担われているかを知る。②家族経営の特徴を知り、企業経営との違いを考える。③農業における収益の意味を、はっきり理解する。	○		○
		2 農業生産の要素 ①農用地の大切さを知り、その正しい利用のしかたを考える。②他産業の労働と農業労働の違いを知り、そのじょうずな利用のしかたを考える。	○	○	
6					

7	第2章 農業経営の 組織と運営	③「経済的に農業資本を利用する」とは、どういうことかを理解する。			
		3 農業経営組織の組み立て ①農業経営の組織を理解する。 ②農業経営者が、どのような理由で作目を選択するかについて考える。 ③農業経営が、なぜ複合化・多角化するかを知る。	○		○
		4 農業経営の集团的取り組みと法人化 ①集团的取り組みが、どのような役割を果たしているかを知る。②農 家の人たちが、なぜ、産地づくりをするのかを考える。 ③なぜ、農業の法人化が進んでいるのかを理解する。	○		○
		5 農業経営の運営 ①「経営は人なり」といわれる理由を考える。 ②利益が最も大きくなる場所は、どこかを知る。 ③経営規模を拡大する利点を理解する。	○		○
10	第3章 農業経営と 情報	1 農業経営をとりまく環境 ①農業経営をとりまく環境には、どの ようなものがあるかを知る。 ②環境と経営を結ぶものを理解する。	○		○
		2 農業経営と情報の収集・活用 ①農業経営に必要な情報には、ど のようなものがあるかを知る。②情報が、経営活動に及ぼす影響を理 解する。③さまざまな情報の正確を理解する。 ④情報の集め方を知り、その活用ができる。	○	○	
		3 農業のマーケティング ①マーケティングとは、どのような活動 かを理解する。②農産物の流通におけるマーケティングの重要性を知 る。③農産物の生産におけるマーケティングの必要性を理解する。	○		○
		4 農業経営の社会環境 ①農業経営における地域の実態について知 る。②農業経営の背景にある。さまざまな農業団体について学ぶ。③ 農業経営者を支える農業政策について理解する。 ④農業経営が外国とも密接な関係についてあることを理解する。	○		○
11	第4章 農業経営の 会計	1 簿記の基礎 ①簿記の意味や簿記の5つの要素などを理解する。 ②取引・勘定・仕訳など、複式簿記の基本を理解する。③複式簿記に よる、基本的な取引の記帳から決算までの流れを理解する。	○		○
		2 各種取引の記帳と決算 ①農業経営における各種の取引の記帳法 を理解する。②決算整理を含んだ決算手続きを理解する。 ③伝票を用いた処理方法を理解する。	○		○
		3 農産物の原価計算 ①原価計算は、農業経営の内部活動の記録・ 計算であることを理解する。②原価計算のしくみについて理解する。 ③原価計算を行う場合の簿記について理解する。	○		○
1	第5章 農業経営の 診断と設計	1 農業経営の診断 ①農業経営診断の大切さと、診断のポイントを 理解する。②農業経営診断のためのさまざまな指標を理解する。 ③農業経営診断の手順と方法を理解する。	○	○	
		2 農業経営の設計①農業経営の設計手順と、さまざまな設計の方法 を理解する。②マーケティングやGAPを活用した経営改善を考える。	○	○	
2	第6章 農業経営の 実践	1 農業経営とプロジェクト学習 ①農業経営におけるプロジェクト 学習の進め方について理解する。	○		○
		2 農業経営プロジェクト実践例 ①農業ビジネスプランの目的と構 成を理解する。②身近な農業経営を選定し、経営改善について考える。	○	○	

教科・科目（単位数）	農業・農業経営（ 2単位 ）	学年	2年
使用教科書・副教材等	農業経営（ 実教出版）	集団	21HR・生産流通コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。 (3) 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
②思考・判断・表現	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	1 農業経営に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。（レポート） 2 農業経営授業に対する諸問題を解決し考えを深めることができる。（レポート） 農業簿記会計の基礎的な知識を身につけ、その演習を通して、具体的に農業経営の改善に活用できる能力を身につけている。（定期テスト・レポート） 3 農業経営・農業簿記について基礎的な知識を身につけ理解している。（定期テスト・レポート）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「農業経営」を学ぶにあたって	地域農業の経営事例や統計資料などを用いて、地域や日本および世界の農業の動向、並びに農業経営の形態について学習し、農業経営の仕組みや課題について理解する。	○		
		農業経営とマーケティングの分野に関心を持ち取り組む。		○	
5	農業の動向と農業経営 日本と世界の農業	食料の世界的動向を理解させるとともに、それが環境問題や消費の安全問題とのかかわりで、供給の制限要因となっていることを理解させる。	○		
		日本の農業経営の特徴と、外国とを比べて特徴を理解する。	○		
		日本の農業がどのような問題点をかかえているのかを理解する。		○	
6	食料・農業・農村政策	食料自給率の概念を理解させるとともに、国別に比較し、そのもつ意味について理解する。	○		

7	農業経営の実際	農業・農村には、どのような役割が期待されているかを考え、今後の農業の進むべき方向について理解を深める。 家族経営と企業経営の特徴を理解する。 収益と費用の概念を正確に把握させるとともに、農業経営の収益目標が経営のかたちによってどのように異なるかを理解する。	○		○
	農業経営の実際	経営が、土地・労働・資本という生産の三要素の組み合わせにより成り立っていることを理解する。	○		○
	農業経営組織	生産組織の役割を知り、産地づくりがどのように行われるか理解する。	○		
9	農業経営組織	農業の法人化について理解する。	○		
		経営の集約化や規模拡大の利益について理解する。			○
10	農業経営の会計	農業経営の改善を行うためには、経営の実態を記録し、これを分析・活用することが大切である。そのために、簿記の必要性が高いことを理解する。	○		
11	農業経営の会計	取引の記帳から決算までの複式簿記のしくみを理解させる。	○		
		農業経営で実際に発生する取引の記帳を理解させる。 取引、勘定、仕訳の基礎的な知識をもとに思考し、正確に記帳できる。		○	○
		原価計算の基本を理解させる。 仕訳帳と元帳の作成を的確に処理し、表現できる。		○	○
12	農業経営の会計	農業簿記の学習によって、企業感覚や経営改善を行う能力・態度を養う。 試算表と決算のしくみ、財務諸表を正確に作成できる。		○	○
1	農業経営とマーケティング	農業にとって、農産物市場の特徴と、農産物流通の特徴について理解する。	○		○
		農産物流通の変化について理解する マーケティングの重要性が高まる社会環境の変化について理解する。	○		
2	農業経営と農産物のブランド化	農業にとって、農産物市場の特徴と、農産物流通の特徴について理解する。	○		

教科・科目（単位数）	農業・野菜（４単位）	学年	２年
使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	集団	２１HR生産技術
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。 （２）野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	- 野菜の基礎知識を理解し、栽培に関しての知識を身につけている。 - 観察や実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、野菜栽培のための実践力を身につけている。
②思考・判断・表現	- 野菜について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 野菜の栽培方法等について考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 - 野菜の種類やその特徴に関心を持ち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート 等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク 等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	野菜の生育と生理	野菜の生育と生理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		野菜の生育と生理に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		野菜の生育と生理について自ら学び、情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
5 6	果実を利用する野菜の栽培	果実を利用する野菜の栽培について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		果実を利用する野菜の栽培に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		果実を利用する野菜の栽培について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
7 9	野菜の栽培環境と生育調節	野菜の栽培環境と生育調節について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		野菜の栽培環境と生育調節に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		野菜の栽培環境と生育調節について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

10 11	葉や花茎を利用する野菜の栽培	葉や花茎を利用する野菜の栽培について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		葉や花茎を利用する野菜の栽培に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		葉や花茎を利用する野菜の栽培について自分の意思や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
12	根を利用する野菜の栽培	根を利用する野菜の栽培について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		根を利用する野菜の栽培に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		根を利用する野菜の栽培について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
1 2	野菜の品種改良と繁殖	野菜の品種改良と繁殖について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		野菜の品種改良と繁殖に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		野菜の品種改良と繁殖について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

教科・科目（単位数）	農業・地域資源活用（ 2 ）	学年	3 年
使用教科書・副教材等	地域資源活用（実教出版）	集団	流通コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域資源の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１） 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２） 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３） 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	①地域資源活用に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。【レポート】 ②地域資源活用に関する諸問題を解決し、同級生と話し合い、考えを深めることができる。【レポート】地域資源活用に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に情報を判断し、表現する創造的な能力を身につけている。【レポート・定期テスト】インターネットやアンケートなどを活用し、地域資源活用に必要な情報を収集することができる。【レポート・定期テスト】 ③地域資源活用に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している。【レポート・定期テスト】

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	農山村社会の変化と地域振興	農山村社会の変化と地域振興について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		農山村社会の変化と地域振興に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		地域振興に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
5 6 7	地域資源活用の意義と役割	地域資源活用の意義と役割について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		地域資源活用の意義と役割に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		地域資源活用の意義と役割について自ら学び、情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
9	地域資源の	地域資源の価値と活用について理解するとともに、関連する技術を身	○		

10 11	価値と活用	に付けている。			
		地域資源の価値と活用に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		地域資源の価値と活用について自ら学び、情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
12 1 2	地域資源活用とキャリアデザイン	地域資源活用とキャリアデザインについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		地域資源活用とキャリアデザインに関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		地域資源活用とキャリアデザインについて自ら学び、情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

教科・科目（単位数）	農業・果樹（３）	学年	３年
使用教科書・副教材等	果樹（実教出版）	集団	31HR 生産技術コース
科目の目標 （１）果実の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	果樹栽培において、必要な基本的な知識を身に付け、その知識をもとに実習に取り組むことができる。
② 思考・判断・表現	果樹栽培の特性や管理方法の知識をもとにどのように実習を行えばよいか、判断することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	果樹に関する体験的な学習に興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
評価方法	（１）授業への取り組み：授業に対する姿勢、学習態度、実習への取り組みで判断する （２）プリント・ノート：授業内容を適切にまとめられているか判断する （３）定期試験

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	ナシの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○
6	モモの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○
7	カキの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○

9	ブドウの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○
10	キウイの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○
11	イチジクの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○
12 1	カンキツの生育特性と栽培管理の方法	果樹の種類に応じた生育特性と栽培特性を理解する。	○	○	
		栽培方法を検討し、課題に対して合理的かつ創造的に解決することができる。		○	
		果樹の生育特性を生かして、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			○

教科・科目（単位数）	農業・栽培と環境（2）	学年	3年
使用教科書・副教材等	栽培と環境（実教出版）	集団	31HR・流通コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栽培植物の育成環境の調整・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	調査、観察、診断、実験を通して、生育と環境要素との関係に関する知識と技術、栽培環境の管理と改善に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	栽培環境に関する課題を発見し、環境に配慮した栽培管理と法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づき創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	環境に負荷をかけない栽培技術や、安全で安心できる栽培植物の生産や環境の保全を目指して、自分の意志や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	①ペーパーテスト、レポート、ノート、ファイル ②実験・実習の実施過程、観察・調査、評価・反省、記録用紙の整理、成果の処理 ③実験・実習の実施過程、観察・調査、評価・反省、レポートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「栽培と環境」を学ぶにあたって栽培と環境	プロジェクト学習、プロジェクトの進め方について理解する	○	○	
		自然環境のなりたち、栽培環境のなりたちについて理解する	○		○
		気象観測の方法を理解し、気象観測を主体的・協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
5	栽培環境と栽培技術 気象的要素	栽培環境に適した作目と技術方法の選択、栽培環境の改良、農業が環境に与える影響について理解する		○	○
		気象と気象要素、気候について理解する。作物栽培と気候、気象災害とその対策について理解する。	○		○
		天気図の作成と読み方を理解し、天気図の作成を行うことができる。		○	○
6	土壌的要素	土壌の役割、機能、土壌中の窒素の動態、土壌肥沃度の管理、土壌の管理と改良について理解する。	○		○

7 9 10 11 12		土壌生物の観察の観察方法を理解し、土壌生物の観察に主体的・協働的に取り組む態度が身についている。		○	○
	生物的要素	農地の生物群集、害虫害、作物病害、雑草害、鳥獣害とその防除について理解する。農薬とその使用法、総合的有害生物管理について理解する。	○		○
		病原菌の観察、病徴や標兆による病害診断方法を理解し、観察や病気診断を主体的・協働的に取り組む態度が身についている。		○	○
	施設型農業の栽培環境	園芸施設の種類、ハウス・温室内の気象・土壌的要素の管理、園芸施設内の生物制御、複合的な環境管理と経営について理解する。	○		○
		塩類濃度障害や電気伝導度について理解し、電気伝導度の測定を実施することができる。		○	○
1	環境に配慮した栽培の実践	農業への環境への影響、農業の物質循環機能、環境に配慮した作物栽培について理解する。	○		○
2		植物工場や循環型農業について調査に主体的・協働的に取り組む態度を身に付けている。		○	○

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	集団	31HR生産技術
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。 ② 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 ③ 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	- 野菜の基礎知識を理解し、栽培に関する知識を身につけている。 - 観察や実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、野菜栽培のための実践力を身につけている。
②思考・判断・表現	- 野菜について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 野菜の栽培方法等について考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 - 野菜の種類やその特徴に関心を持ち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	人工環境における栽培技術	人工環境における栽培技術について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		人工環境における栽培技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		人工環境における栽培技術について自ら学び、情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
5 6	環境制御型のスマート農業技術	環境制御型のスマート農業技術について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		環境制御型のスマート農業技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		環境制御型のスマート農業技術について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
7 9	データ農業の実践	データ農業について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		データ農業に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		データ農業について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
10 11	野菜の流通と経営改善	野菜の流通と経営改善について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		

12		野菜の流通と経営改善に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		野菜の流通と経営改善について自分の意思や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
1 2	栽培施設の管理	栽培施設の管理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		栽培施設の管理に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		栽培施設の管理について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

教科・科目（単位数）	農業・課題研究（２）	学年	３年 31HR
使用教科書・副教材等	なし	集団	生産技術・流通コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 （２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	課題研究に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、課題解決に活用できるより高度な知識と技術を深化し、体系的に理解し身に付けるようにする
② 思考・判断・表現	学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、記録、評価、検証、まとめ、発表などを通し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う
③ 主体的に学習に取り組む態度	学習活動を通して、課題解決能力の向上を図り、主体的かつ協働的に地域の農業や産業の貢献に取り組む態度を養い、合理的に解決しようとする実践的態度を身に付けている。
評価方法	① 課題研究ノート、ファイル：記述の内容、点検、確認、分析 ② 調査・研究・実験に取り組む姿勢：行動の観察、確認、分析 ③ 基礎的・基本的な知識の理解：研究報告書の作成、提出、点検 ④ 調査研究の発表：スライド作成、発表会での発表態度・内容

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	課題研究の設定・計画	研究テーマに従い、計画を立てて研究に取り組むことができる。 課題研究計画書を作成する。	○	○	○
5	研究の実施	研究計画に従って、毎時間実施することを各自が考え、わからないことなどを担当に聞き、アドバイスを受けるなどして研究に取り組むことができる。	○	○	○

6 7 9	研究の実施	設定した課題解決方法について理解し、課題を研究する能力を身に付けている。 栽培管理・観察・記録を毎時間しっかりとまとめることができる。	○	○	○
10 11 12 1 2	研究の実施 結果の整理と下書き作成 清書作成提出 発表会準備・発表	研究に取り組み、データを取り、データの集計を行い、結果を整理していくことができる能力を身に付ける。 文化祭で研究についての取り組みの中間報告の作成の実施。 課題研究の下書きを作成する能力を身に付けている。 清書の提出、発表用紙の作成、発表会用のスライド作成、原稿を作成し、発表をすることができる。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・農業経営（ 2 ）	学年	3 年
使用教科書・副教材等	農業経営（実教出版）	集団	流通コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１） 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２） 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３） 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
②思考・判断・表現	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	①農業経営に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。【レポート】 ②農業経営に関する諸問題を解決し、同級生と話し合い、考えを深めることができる。【レポート】 農業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に情報を判断し、表現する創造的な能力を身につけている。【レポート・定期テスト】インターネットやアンケートなどを活用し、農業経営に必要な情報を収集することができる。【レポート・定期テスト】 ③農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している。【レポート・定期テスト】

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	第1章 農業の動向と農業経営	1 日本と世界の農業 ①日本と世界の農業の現状を知る。②日本における農業経営の実態と特徴を理解する。③日本も含めた世界における食料の供給について考える。	○		○
		2 農業・農村と食料 ①環境・農業や農村には、どのような役割が期待されているか考える。②食生活の変化や食に対する消費者の意識を理解する。③自然の循環機能を生かした農業のありかたを理解する。	○		○
		3 こんにちの農業経営 ①環境保全型農業を実現させていくための制度を理解する。②有機農業の特徴と意義を考える。③新たにみられるようになった農業経営のタイプと取り組みを知る。	○	○	
5	第2章 農業経営の組織と運営	1 農業経営の主体と目標 ①農業が、だれによって担われているかを知る。②家族経営の特徴を知り、企業経営との違いを考える。③農業における収益の意味を、はっきり理解する。	○		○
		2 農業生産の要素 ①農用地の大切さを知り、その正しい利用のしかたを考える。②他産業の労働と農業労働の違いを知り、そのじょうずな利用のしかたを考える。	○	○	
6					

7	第2章 農業経営の 組織と運営	③「経済的に農業資本を利用する」とは、どういうことかを理解する。			
		3 農業経営組織の組み立て ①農業経営の組織を理解する。 ②農業経営者が、どのような理由で作目を選択するかについて考える。 ③農業経営が、なぜ複合化・多角化するかを知る。	○		○
		4 農業経営の集团的取り組みと法人化 ①集团的取り組みが、どのような役割を果たしているかを知る。②農 家の人たちが、なぜ、産地づくりをするのかを考える。 ③なぜ、農業の法人化が進んでいるのかを理解する。	○		○
		5 農業経営の運営 ①「経営は人なり」といわれる理由を考える。 ②利益が最も大きくなる場所は、どこかを知る。 ③経営規模を拡大する利点を理解する。	○		○
10	第3章 農業経営と 情報	1 農業経営をとりまく環境 ①農業経営をとりまく環境には、どの ようなものがあるかを知る。 ②環境と経営を結ぶものを理解する。	○		○
		2 農業経営と情報の収集・活用 ①農業経営に必要な情報には、ど のようなものがあるかを知る。②情報が、経営活動に及ぼす影響を理 解する。③さまざまな情報の正確を理解する。 ④情報の集め方を知り、その活用ができる。	○	○	
		3 農業のマーケティング ①マーケティングとは、どのような活動 かを理解する。②農産物の流通におけるマーケティングの重要性を知 る。③農産物の生産におけるマーケティングの必要性を理解する。	○		○
		4 農業経営の社会環境 ①農業経営における地域の実態について知 る。②農業経営の背景にある。さまざまな農業団体について学ぶ。③ 農業経営者を支える農業政策について理解する。 ④農業経営が外国とも密接な関係についてあることを理解する。	○		○
11	第4章 農業経営の 会計	1 簿記の基礎 ①簿記の意味や簿記の5つの要素などを理解する。 ②取引・勘定・仕訳など、複式簿記の基本を理解する。③複式簿記に よる、基本的な取引の記帳から決算までの流れを理解する。	○		○
		2 各種取引の記帳と決算 ①農業経営における各種の取引の記帳法 を理解する。②決算整理を含んだ決算手続きを理解する。 ③伝票を用いた処理方法を理解する。	○		○
		3 農産物の原価計算 ①原価計算は、農業経営の内部活動の記録・ 計算であることを理解する。②原価計算のしくみについて理解する。 ③原価計算を行う場合の簿記について理解する。	○		○
1	第5章 農業経営の 診断と設計	1 農業経営の診断 ①農業経営診断の大切さと、診断のポイントを 理解する。②農業経営診断のためのさまざまな指標を理解する。 ③農業経営診断の手順と方法を理解する。	○	○	
		2 農業経営の設計①農業経営の設計手順と、さまざまな設計の方法 を理解する。②マーケティングやGAPを活用した経営改善を考える。	○	○	
2	第6章 農業経営の 実践	1 農業経営とプロジェクト学習 ①農業経営におけるプロジェクト 学習の進め方について理解する。	○		○
		2 農業経営プロジェクト実践例 ①農業ビジネスプランの目的と構 成を理解する。②身近な農業経営を選定し、経営改善について考える。	○	○	

教科・科目（単位数）	農業・農業経営（ 2 ）	学年	3 年
使用教科書・副教材等	農業経営（実教出版）	集団	生産技術コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１） 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２） 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３） 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	農業経営の設計と管理に関する基本的・体系的な知識を身につけ、コスト管理やマーケティングの必要性を理解している。農業経営の改善に必要な農業会計や情報管理、経営診断と設計などに関する基本的・体系的な技術を身につけ、経営管理の改善を適切に行うとともに、マネジメント能力をもって経営の設計と管理に関する技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	農業経営の諸課題の解決を目指して思考を深め、農業経営の設計と経営管理を適切に判断し、経営管理の改善ができるように表現する創造的・実践的な能力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	農業経営に関する諸課題について関心をもち、農業経営を体験する楽しさなどの体験を通して、農業経営の設計と管理に意欲的、かつ主体的に取り組むとともに、経営管理の改善を図ろうとする創造的・実践的な態度を身につけている。
評価方法	①農業経営に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。【レポート・授業態度】 ②農業経営に関する諸問題を解決し、同級生と話し合い、考えを深めることができる。【授業態度・レポート】農業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に情報を判断し、表現する創造的な能力を身につけている。【レポート・定期テスト】インターネットやアンケートなどを活用し、農業経営に必要な情報を収集することができる。【レポート・定期テスト】 ③農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している。【レポート・定期テスト】

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	第1章 農業の動向 と農業経営	1 日本と世界の農業 ①日本と世界の農業の現状を知る。②日本における農業経営の実態と特徴を理解する。③日本も含めた世界における食料の供給について考える。	○		○
		2 農業経営動向 ①農業が、だれによって担われているかを知る。②農業経営の特徴を知り、企業経営との違いを理解する。③農業経営の直面する課題に、どう対応していくかを考える。	○		○
		3 食料消費の動向と社会経済環境 ①農業や農産物が、食料消費とどのように関係するかを知る。②食生活の変化や食に対する消費者の意識を理解する。③日本も含めた世界における食料の供給について考える。	○	○	
6	第2章 農業のマネ ジメント	1 農業のマネジメント ①農業経営をとりまく環境に、どう対応すべきかを知る。②経営環境に合わせて、目標を実現できる経営戦略を考える。③さまざまな情報を、経営活動に活かせる能力を理解する。 企業との連携授業① JA 出前授業	○		○

7	第2章 農業のマネジ メント	2 生産のマネジメント ①適切な作目選択と利益が最大化する原理を知る。②農業経営が、なぜ多角化するのかを理解する。③農業で経営規模を拡大する利点と方法を考える。	○	○	
		3 組織のマネジメント ①集团的取り組みが、農業経営で果たしている役割を知る。②農業経営の法人化が、どのように進んでいるかを理解する。③適材な人材を確保し、意欲的に働ける職場づくりを考える。	○		○
		4 会計によるマネジメント ①農業経営における会計と簿記の重要性を理解する。②簿記の基本的しくみを理解する。（農業経営における各種取引の記帳法を理解する、決算整理を含んだ決算手続きを理解する、伝票を用いた処理方法を理解する。）③会計を活用した農業のマネジメントを理解する。	○	○	○
		5 リスクのマネジメント ①農業において、気をつけるべきリスクを知る。②農業経営が、リスクにうまく対応できる方法を理解する。 企業との連携授業②	○		○
11	第3章 農業のマー ケティング	1 農業マーケティングの概要 ①マーケティングとはどのような活動かを理解する。②農産物の市場・流通のしくみと最近の動向を知る。③農業におけるマーケティングの必要性を考える。	○		○
		2 農業のマーケティング戦略 ①マーケティング戦略の基本枠組みを理解する。②農業におけるマーケティング戦略の手法を理解する。③社会の変化とマーケティングの動向を知る。さまざまな情報の正確を理解する。	○	○	
		3 農産物のブランド化 ①ブランドおよびブランド化の役割を理解する。②農産物のブランド化の手法を知る。③ブランド管理の内容とその重要性を理解する。	○		○
12	第4章 農業経営の マーケティ ング活動	1 市場調査と環境分析 ①市場調査・環境分析のポイントを理解する。②市場調査や環境分析の手順を理解する。	○		○
		2 市場調査・環境分析の進め方 ①市場調査の実例を知り、自分でも取り組んでみる。②環境分析の実例を知り、自分で取り組んでみる。	○		○
		3 農業経営の設計と診断 ①利益を実現する農業経営設計の意味と手法を理解する。②農業経営診断の大切さと診断のポイントを理解する。③農業経営診断の方法を理解し、自分で取り組んでみる。	○		○
	第5章 農業経営・マ ーケティング の実践	1 法人化と6次産業化によるリスクの軽減と15代続く水田農業経営の6次産業化について理解し、自分なりの取り組みを考える。	○	○	○
		2 自社ブランドによる高級感と差別化の実現について理解し、自分なりの取り組みを考える。 企業との連携授業③	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・野菜（４単位）	学年	３年
使用教科書・副教材等	野菜（実教出版）	集団	３１HR生産技術
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。 （２）野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	- 野菜の基礎知識を理解し、栽培に関する知識を身につけている。 - 観察や実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、野菜栽培のための実践力を身につけている。
②思考・判断・表現	- 野菜について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 野菜の栽培方法等について考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 - 野菜の種類やその特徴に関心を持ち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート 等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク 等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	人工環境における栽培技術	人工環境における栽培技術について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		人工環境における栽培技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		人工環境における栽培技術について自ら学び、情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
5 6 7	温室メロンの栽培	温室メロンの栽培について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		温室メロンの栽培に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		温室メロンの栽培について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
9	野菜の流通と経営改善	野菜の流通と経営改善について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		野菜の流通と経営改善に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		野菜の流通と経営改善について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

10	イチゴの加温栽培	イチゴの加温栽培について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
11					
12		イチゴの加温栽培に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		イチゴの加温栽培について自分の意思や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
1	施設利用型の促成栽培	施設利用型の促成栽培について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
2		施設利用型の促成栽培に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		施設利用型の促成栽培について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○